笹子トンネルが開通した時に伊藤博文公は「因地利」と東坑口に大書された、其原本は今日も古川博士の秘藏になつてをる。

Dr. B. Furukawa.
Pre-Presindent of
The Japanese Society of Civil Engineers.
工學博士　古川阪次郎氏

ワラジ履きで出た

工學博士　古川　阪次郎

私は明治十七年に工部大學を出て工部省鐵道寮に入つた。其の年から日本鐵道會社の建設工事を政府が引受けたので其工事に從事する事になつた。

上野から赤羽、池袋、新宿、品川、を經て汐留（前の新橋驛）に至る所謂今の山手線の工事をやつた。

上野から新宿迄の一工區は故人の益田禮作氏が所長で、私が其工事をやつた。

新宿から汐留迄の工區は原口要氏が所長であつた。

× × ×

昔の工事振りと言ふものは今日とは非常に異つて居て休日と言へば一日と十五日の月二回きりで、工事を監督する者も、仕事する者も皆ワラジ履で出たものだ。

一同の從業員が仕事に熱心であつた事は、上役人の鼻息をうかがうなんて事は毛頭なく唯自分の仕事に眞劍であつた。

其の當時の工事は請負とも直營ともつかぬもので、現場々々で此所は一立坪を幾らでやる、橋脚の根堀でも一尺堀下げを幾らでやると云ふ風に實地で協議する。それで仕事の割付が決まると、人足と俱に出て人足と俱に歸ると云ふ狀態で、先づ半直營であつた。

× × ×

東北線の工事になつてからは、工事を非常に急いだものだから、用地の買收なども鐵道の方で必要な丈け實地にどしどし杭を入れて後の交渉は縣廳の收稅係でやつて貰ふ。

設計の如きも實地へ札を立てゝ此所にはどう言ふ橋が出來る、此所には何が出來ると記入して、其實地で地方民と協議して決定したものだ。

工事も橋梁などは假橋を先に造つて開通を急ぎ、本橋は開通後に仕上げると言ふ風で、

迅速な工法を執つたから、明治十八年には大宮から栗橋迄開通した。

其後は仙臺から東京へ向つて建設工事に從事し、やつぱり益田禮作氏に從つて鹽釜へ荷揚場や船着場を設置して、船運に依る材料機械類の荷揚をした。當時の機械と言へば鐵道機關車の外には之と云ふ程のものはない輕運車と云ふ今のホイルバロー見たいなもの又は猫車と云ふ土工用の手車を使つてゐた。杭打はすべて木製のモンキーであつた。山手線の目白の切取工事で初めて土工用のトロリーを使つたが、當時としては珍らしい事であつた。

× × ×

日清戰爭後中央線の八王子甲府間の工事をやる事になつて、私が所長でやつた。何しろ四十二哩の間に四十二箇のトンネルがある。中には延長一哩半の小佛、三哩の笹子トンネルなどがあつて日本最初の難工事だつた。

今日でこそ日本のトンネル工事も大分進歩したが笹子隧道を施工する事は當時として實に大なる謎であつたに異いない、機械的な工事設備も此の工事に初めて整頓した位のものであつた。(記者)

小佛、笹子及び其附近四ヶ處の隧道は直營工事として施工する事になつた、請負人としては機械的な設備がないところへ、難工事であるから見積の見當も付かない次第だ。

ところが此の四ヶ所の隧道工事も豫定の如く一同は大なる意氣込で作業を進めて居つたが、政府の財政緊縮方針に遭ひ工事は殆んど中止せらるの狀態となつた、私は工事の責任者として非常に困つた、末松遞相に面會して圖面迄持ち込んで大に說明した。其結果中止する迄には至らなかつたが、請負の部分は解約する、直營の人夫は減する事になり、笹子トンネルは金がなくて殆んどやれなくなつた然し全然止めるわけに行かんので導坑を進める事にした。導坑以外は一ヶ年中止と云ふ事にした。

× × ×

翌年になつて急に工事を進める事になつた而して遲れてをる切擴箇所は拔堀でやつて、大に進捗に努めた。當時私の施工方針は導坑と切擴を各二百尺位宛の間隔で進める事にしてをつたから、導坑貫通後間もなく順次に仕上工事が完成した。

最も愉快であつた事は、毎日兩口の導坑から爆音が互に響いて來る樣になつて、貫通間際になると、何等か誤差でもないかと幾分不安の念もあつたが、僅か何吋かの差で遂に貫通した時の氣持は今でも愉快な思出だ。

中央線の工事では一月の半分は現場を廻つた、殆んどトンネルばかりの工事だから、現場廻りも樂でない、然し廻つて見ると現場員にも張合が出て來る、自分にも進工の具合がわかつて何よりの樂みであつた。

× × ×

日露開戰の事を私はロンドンで知つた、明治三十七年四月にロンドンから歸朝すると、三日目に滿洲へ出張を命ぜられた、參謀本部付の運輸技長と云ふ名儀で、五月に鐵道作業の人員を編成して出發した。

戰時中であるから滿洲では種々困難に遭つたが、我軍が奉天占領後に兒玉參謀長から一ヶ月間に奉天、沙河間の鐵道を改修してくれと云ふ事で兎に角引うけたが、露軍が退却當時軌條も橋梁も破壞して行つたのを、全部改修工事をやつて、5呎であつたゲージを3呎6吋に改めた、此の工事は寒中の事で地表一尺以下は凍結してをるので杭打などには非常に困つた、夜間は僅かに列車內に睡眠するの狀態であつた。

× × ×

工事は其人間の氣分の問題で、氣込が衰へてゐては駄目だ、私は昔から現場員に草鞋ばきを主張したもので、之は形式上の問題でなく、泥の中でも、水の中でも自ら飛込んでやる位の氣込が無くては良い工事は出來ない。